

◎ 彙報

第四六回原爆文学研究会

○日時 二〇一四年二月二一日(日) 一二時より

○会場 九州大学西新プラザ大会議室

○「戦後70年」連続ワークシヨップⅢ

古典詩と現代詩の協奏——実作者を迎えて

○「戦後70年」連続ワークシヨップⅣ

カラストロフイと詩

報告1 原民喜における詩と散文の往還

——「永遠のみどり」論

報告2 アウシュヴィツとヒロシマ以後の詩の変貌

——パウル・ツェランと原民喜の詩を中心に——

報告3 3・11に向き合った詩人たち

——「永遠のみどり」論

第四七回原爆文学研究会

【二日目】二〇一五年三月七日(土) 一四時より

○会場 長崎大学環境科学部大会議室

○研究発表

ジェノサイドとしての原爆

——長谷川四郎「小さな礼拝堂」論——

“Protest and Survival”

——イギリス非核武装運動と“When the Wind Blows”——

【二日目】二〇一五年三月八日(日) 一〇時より

○「戦後70年」連続ワークシヨップⅤ

原爆文学「古典」再読2——佐多稲子『樹影』

司会者から

松永京子

石川巧

高野 吾朗

新井 高子

野坂 昭雄

高橋 由貴

発題1 福岡千鶴子と醇次郎——鏗^シ魂の通奏低音

発題2 孤独の諸相——佐多稲子『樹影』によせて

○「戦後70年」連続ワークシヨップⅥ

長崎原爆と復興の言説

報告1 長崎原爆の復興をめぐる詩と記録

報告2 「浦上五番崩れ」としての原爆

報告3 長崎の戦災復興事業と平和祈念像建設

第四八回原爆文学研究会

【二日目】二〇一五年八月一日(土) 一四時より

○会場 サテライトキャンパスひろしま504中講義室

○研究発表

詩人御庄博実と50年代詩運動

山代巴「或るとむらい」論

【二日目】二〇一五年八月二日(日) 一〇時より

○「戦後70年」連続ワークシヨップⅦ

原爆文学「古典」再読3——大田洋子『屍の街』

司会者から『屍の街』はどのように読まれてきたか?

発題1 古典再読Ⅲ 大田洋子『屍の街』

発題2 「物語」を「空隙」で語るということ

——大田洋子の「じびれ」と「まよひ」について

○「戦後70年」連続ワークシヨップⅧ

広島から問う、「原爆文学」と「戦後70年」

報告1 被爆体験記における朝鮮人被爆者の表象

——1970年代まで

報告2 「原爆」をめぐる想像力の枠組み

——朝鮮戦争とベトナム戦争を手がかりに

報告3 「原爆文学」の1970年代

司会

楠田 剛士

楠田 剛士

篠崎 美生子

新木 武志

桐谷 多恵子

坂口 博

村上 陽子

司会

楠田 剛士

楠田 剛士

篠崎 美生子

新木 武志

桐谷 多恵子

コメント

宇野田 尚哉

川口 隆行

中野 和典

長野 秀樹

柳瀬 善治

山本 昭宏

黒川 伊織

高 榮蘭

成田 龍一

高野 吾朗

新井 高子

野坂 昭雄

高橋 由貴

石川 巧

高野 吾朗

新井 高子

野坂 昭雄

高橋 由貴

石川 巧

高野 吾朗

新井 高子

野坂 昭雄

高橋 由貴

石川 巧